白老町地域公共交通網形成計画

概　要　版

平成29年3月
令和6年3月一部改訂
白老町

白老町地域公共交通網形成計画【概要版】　目　　次

第１章　はじめに　1

計画策定の目的　1

第２章　公共交通をとりまく現状と課題　2

白老町の人口推移と高齢化の進展　2

都市機能の分布状況　3

白老町内を運行する公共交通　4

地域循環バス「元気号」利用実態調査　5

地域住民ヒアリング調査　6

観光施設等来訪者に対するアンケート調査　7

第３章　地域公共交通網形成計画の基本方針及び目標　8

白老町地域公共交通網形成計画の全体フロー　8

白老町のめざす公共交通像　9

第４章　計画に位置付ける取組み及び実施主体　10

第５章　計画の進行管理　15

計画の進行管理に関する指標　15

協議会におけるPDCAサイクル　15

施策実施に関する想定スケジュール　16

第１章　はじめに

計画策定の目的

白老町内を運行する公共交通は、ＪＲ室蘭本線をはじめ、バス事業者による民間バス路線、町が運行する地域循環バス「元気号」が運行しています。中でも、地域循環バス「元気号」は、平成6年10月から運行をはじめ、町内を網羅した運行や運賃の無料化等により、平成17年度には約7万人の利用がありましたが、その後は人口減少や運賃の有償化、度重なる路線の見直しなども影響し、平成27年度には年間約2.8万人の利用まで減少しています。特に、平成27年12月に実施した運行内容の見直し以降は、萩野公民館での乗換や運行時間帯の変更などにより、利用者が急激に減少しており、地域循環バス「元気号」の抜本的な見直しが必要となっています。

また、本町の高齢化は急速に進行しており、将来的にもその傾向は継続することが予想されています。このことから、今後外出が困難な町民の増加が懸念され、これら町民に対する生活支援サービスのあり方について検討を行うことが重要となっています。さらに、平成32年度に国立アイヌ民族博物館が開設予定であり、本町の観光行動の活発化に資する取組みとして、町内の観光資源をネットワーク化する公共交通網の構築を検討する必要があります。

そこで本町では、上記で挙げた公共交通に関する課題を解決するため、多様化するニーズに応え、かつ将来的にも持続可能な交通手段の確保と住みよいまちづくりに寄与する公共交通網の構築に向け、公共交通のマスタープランとして「白老町地域公共交通網形成計画」を新たに策定します。

白老町地域公共交通網形成計画の区域と対象期間は、以下の通りです。

計画の区域　　：白老町全域
計画の対象期間：平成29年度～令和6年度の8年間

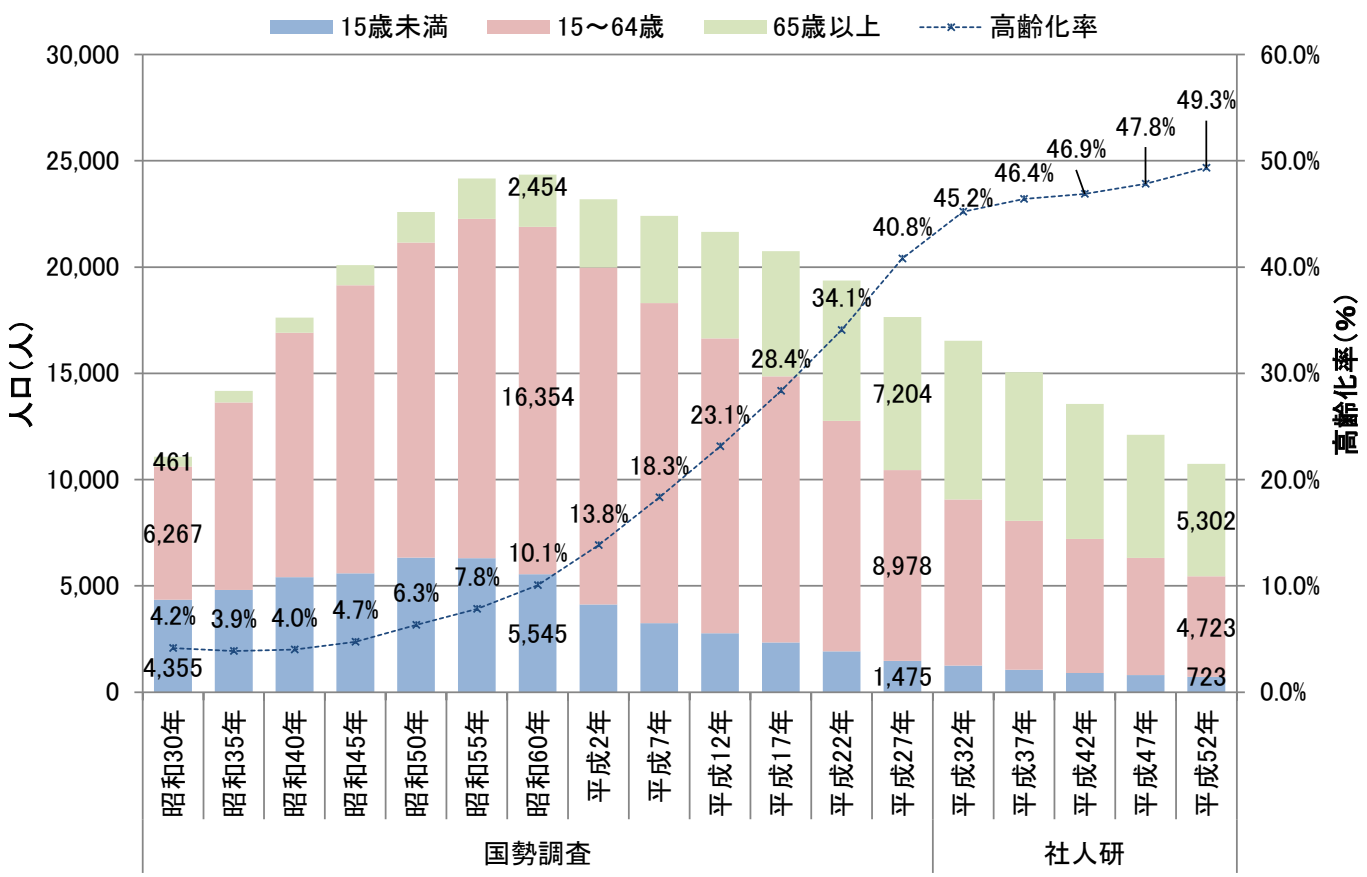
地域特性　白老町の人口推移と高齢化の進展

白老町の人口推移をみると、高度経済成長期等の時代をはさみ、人口は一貫して増加傾向が続き、昭和45年には人口が2万人を超え、昭和60年には白老町の人口のピークである24,353人に達しました。その後は、バブル経済崩壊による経済情勢の悪化とその後の低迷や、製紙産業の人員削減等も重なり人口は減少を続け、直近の国勢調査が行われた平成27年には17,740人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、白老町の人口減少は続くものと考えられており、平成52年には現在よりも人口は約7,000人減少し、総人口は約11,000人前後になるとされています。

また、高齢化率も人口のピークであった昭和60年には10%程度でありましたが、今回の国勢調査では40%を超えているのが現状です。

なお、平成27年に策定された「白老町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」では、現状の推計に対して、合計特殊出生率の引き上げや、転入促進・転出抑制の取組みの推進、移住・雇用拡大、子育て世代の移住促進などの施策に取り組むことで、平成52年の人口を14,000人に維持することを目標としています。

【白老町の年齢別人口及び高齢化率推移】



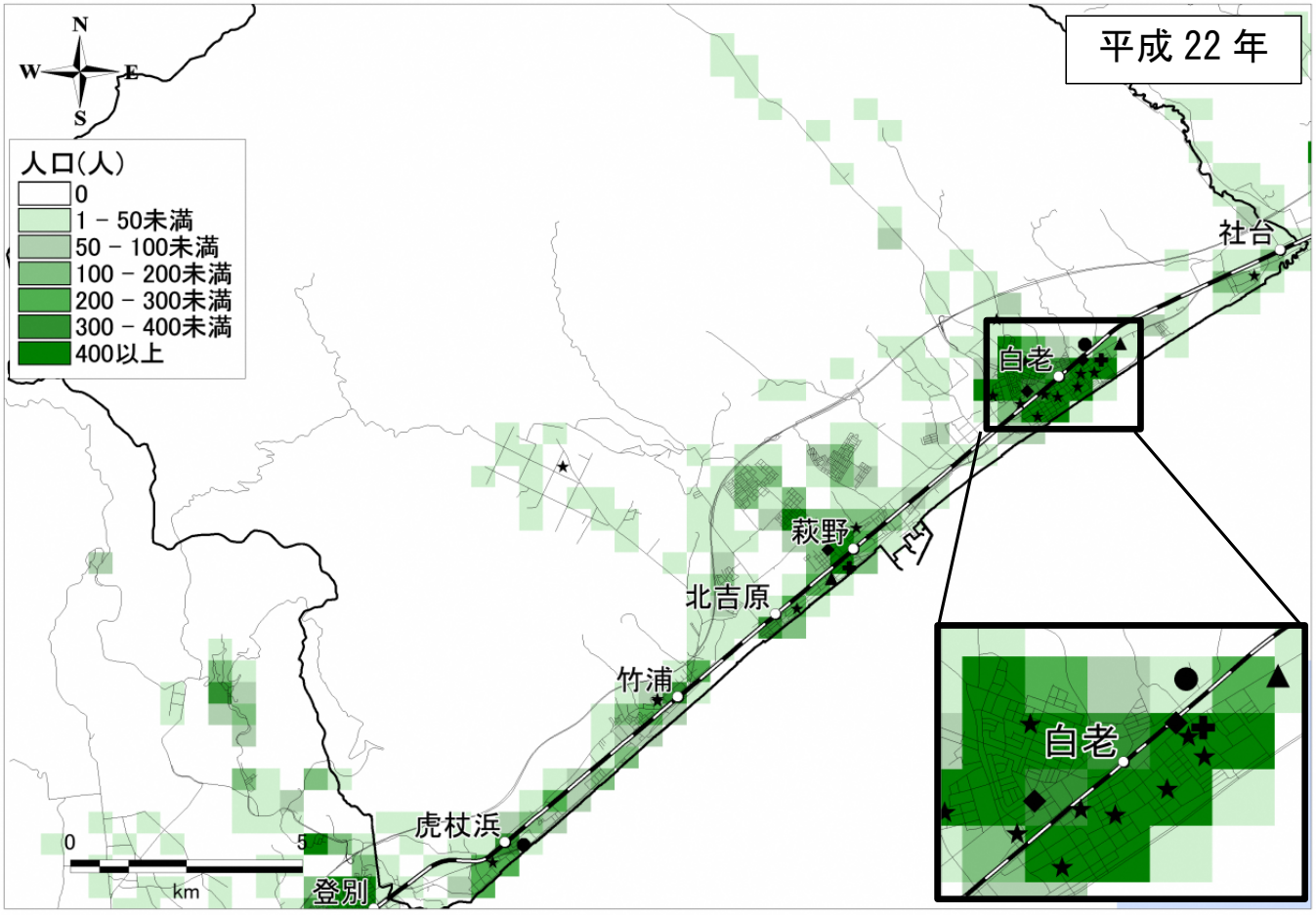
資料：平成27年までは各回国勢調査（※年齢不詳は除く）
平成32年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計

地域特性　都市機能の分布状況

白老町における商業、医療、公共施設の分布状況は、白老町市街地に集中しており、アイヌ民族博物館等の観光施設は、市街地からは離れた地域に立地しています。

町内各地区から市街地や観光施設までのアクセス性の向上に向けては、自動車のみならず、バス路線等を活用した公共交通網の整備が必要であると考えられます。

【白老町の都市機能の分布状況】



資料：平成22年国勢調査

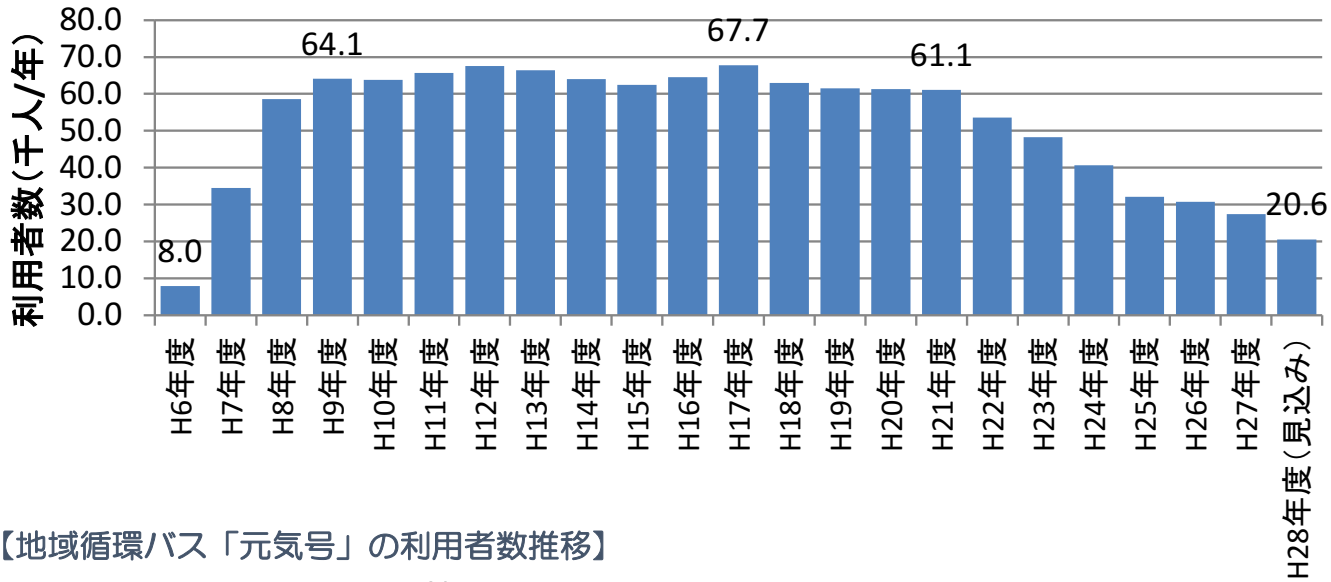
公共交通の概況　白老町内を運行する公共交通

白老町内を運行する公共交通としては、ＪＲ室蘭本線の他に、バス事業者１社による1路線、町が運行する地域循環バス「元気号」が2系統18路線運行しています。

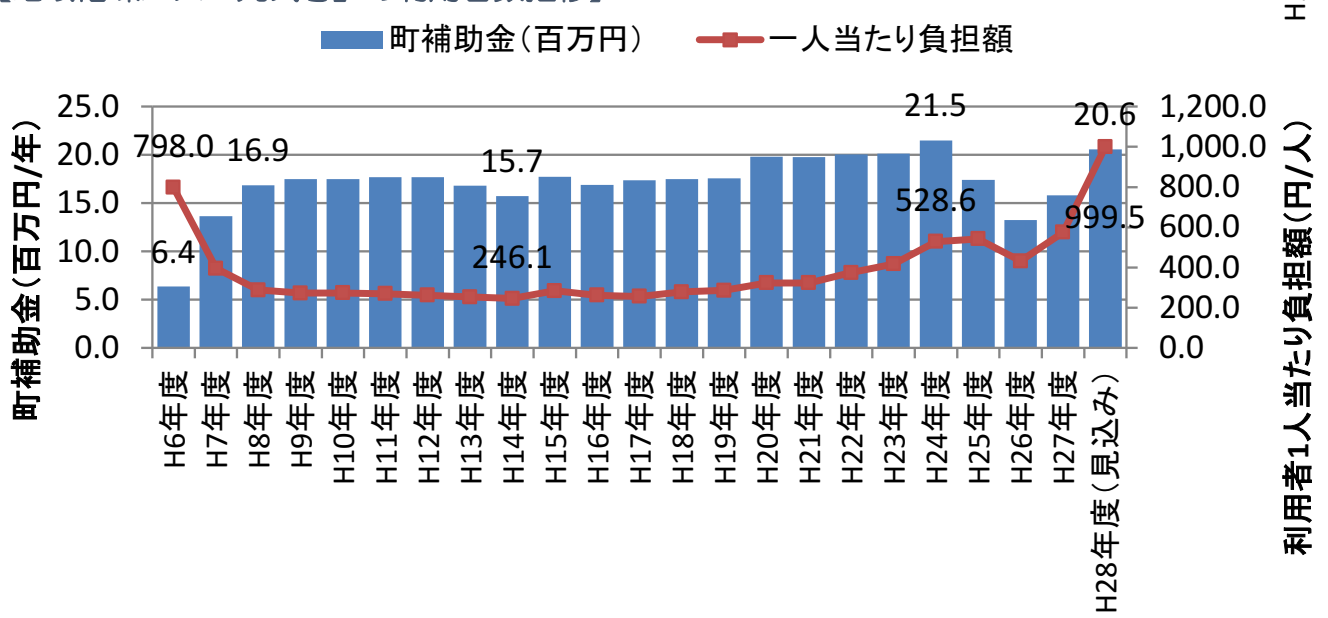
とりわけ、地域循環バス「元気号」は、平成6年10月から運行を開始し、町内を網羅した運行や運賃の無料化などで、平成17年度にピークの約6.8万人となりました。しかし、その後は、人口減少などの影響から減少傾向となっており、平成22年度以降は急激な減少傾向に転じており、平成28年度には約2.1万人の利用者まで減少しています。

また、地域循環バス「元気号」の運行維持に係る町補助金は、平成24年度まで増加傾向となっており、平成24年度で約21.5百万円となっています。その後は減少傾向となりましたが、利用者数の減少もあり、１人当たりの負担額では、平成27年度に約575.4円と過去最高になっています。

【地域循環バス「元気号」の利用者数推移】



【地域循環バス「元気号」の利用者数推移】



各種調査結果の概要　地域循環バス「元気号」利用実態調査

平成27年12月に路線の改訂が行われた、白老町内を運行する地域循環バス「元気号」の利用実態について、現況を把握するため、利用実態調査を実施しました。

（１）調査対象

白老町が補助し、道南バス㈱が運行する、地域循環バス「元気号」（①号車及び②号車の2台）のバス利用者全員を対象に調査を実施

（２）調査実施日

平成28年9月6日（火）　※①号車及び②号車の始発・終発を含めた全便を対象

（３）調査方法

調査員が各便のバスに乗車し、バス利用者にヒアリング調査を実施

（４）調査項目

①利用者の属性（性別、年齢、職業）

②利用状況（利用路線、利用時間帯、利用目的、利用頻度等）

【地域循環バス「元気号」利用実態調査結果の概要】

- 調査当日の利用者総数は81名であり、利用者の約半数は運行本数が多い「萩野公民館前～保健福祉センター（イワクラ団地・くまがい前経由）」を利用しています。
- ①号車、2号車あわせて1日18便運行している「元気号」の1便当たりの平均利用者数は4.5人ですが、一部路線では1便当たりの利用者数が1人に満たない路線が見受けられます。
- 平成22年度に実施した同様の調査結果と比較すると、「通学」目的の利用者が0人になっており、さらに、全体利用者数も半減以下となっている状況です。
- 特に、虎杖浜地区からの利用者は0人になるなど、平成27年度12月に実施した路線見直しの影響が大きいことがうかがえます。

各種調査結果の概要　地域住民ヒアリング調査

地域循環バス「元気号」の再編に向け、バス利用者や非利用者の声を直接聞き取り、現状の「元気号」における課題及びニーズの明確化を目的とします。

（１）調査対象

町内各地区に居住する町民

（２）調査実施日

平成28年11月16日（水）～18日（金）

（３）開催状況一覧

地区名	日時	場所	参加人数
虎杖浜地区	平成２８年１１月１６日（水） １３：００～１５：００	虎杖浜生活館	１３名
竹浦地区	平成２８年１１月１６日（水） １５：３０～１７：３０	竹浦コミュニティセンター	２２名
萩野地区	平成２８年１１月１７日（木） １３：００～１５：００	萩野児童館	３０名
北吉原地区	平成２８年１１月１７日（木） １５：３０～１７：３０	北吉原本町生活館	１１名
白老町	平成２８年１１月１８日（金） １４：００～１６：００	白老町コミュニティセンター	５名

（４）調査項目

元気号改正後の不満及び意見・要望

【地域住民ヒアリング調査結果の概要】

◆元気号改正後の不満

- 「路線や乗継がわかりづらい」
- 「目的地までの所要時間が長い」
- 「利用したい時間帯に便がなくなり、利用しなくなった」

などの元気号改正後の不満が挙がりました。

◆意見・要望

- 「利用者が少ない区間はデマンドバスでもよい」
- 「帰りの便が不便なので、午後便を増やしてほしい」
- 「萩野公民館での乗り換えをやめてほしい」

など、運行改善に関する意見・要望が挙がりました。

各種調査結果の概要　観光施設等来訪者に対するアンケート調査

地域や各施設が有する魅力、解決すべき課題を明らかにするため、駅や博物館、地場特産品を取り扱う施設等の多様な調査地点において、観光施設等を訪れた来訪者に対してアンケート調査を実施し、これからの観光施策や観光まちづくりと公共交通の連携施策の検討に資する基礎資料として幅広く活用します。

（１）調査地点及び対象

町内における観光入込客数の多い上位4地点及び、特急停車駅である登別駅の計5地点における利用者を対象

- ポロトコタン（アイヌ民族博物館）
- たらこ家虎杖浜
- ＪＲ登別駅
- 白老たまごの里　マザーズ
- 白老牛のいわさき

（２）調査実施日

平成28年8月11日（木・祝日）　９：00～17：00

（３）調査方法

調査員による聞き取り方式により実施

（４）調査項目

①基本属性（性別、年齢、居住地、職業等）

②観光動向及び国立アイヌ民族博物館への来訪意向

③町内周遊バス運行時の利用意向

【観光施設等来訪者に対するアンケート調査結果の概要】

- 道内観光客が中心となっている「マザーズ」や「たらこ家虎杖浜」、「白老牛のいわさき」においては、リピーターの割合が多く、道外観光客が中心となっている「ポロトコタン」は、はじめての割合が多くなっています。
- 国立アイヌ民族博物館への来訪意向は、全施設で「行きたい」の割合が最も高くなっています。
- 町内周遊バスの利用意向は、道外観光客が中心となっている「ポロトコタン」において、約5割が「利用したい」と回答しています。さらに、特急停車駅の登別駅においては、約7割が「利用したい」と回答しています。

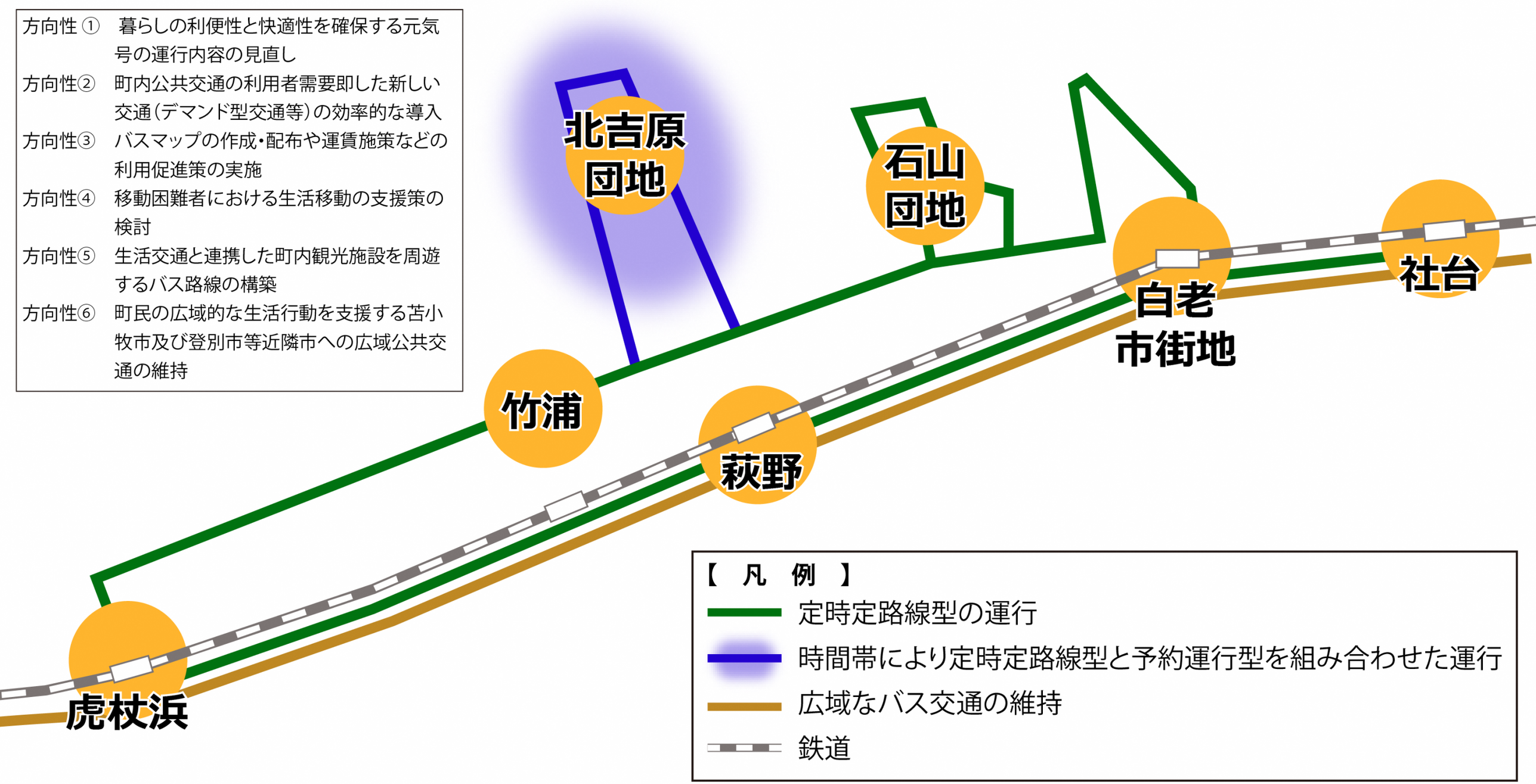
基本方針　白老町地域公共交通網形成計画の全体フロー

現状及び問題点	課題	基本的な方向性
・平成27年12月の元気号の運行見直し以降における急激な利用者数の減少 ・町民の移動実態と乖離した元気号の運行 ・乗継が必要なことによる、町西側から市街地までのアクセス性の低下	課題①　町内における通院・買い物・その他私用などの生活移動を支える公共交通網の構築が必要	**方向性①　暮らしの利便性と快適性を確保する元気号の運行内容の見直し**
・元気号運行車両における乗り降りの不便さ	課題②　高齢者や障がい者も安心して利用できるバス交通の環境整備が必要	
・元気号における迂回ルート運行による運行時間の長大化 ・元気号における利用者が少ない区間の存在	課題③　町内公共交通の利便性向上及び効率化につながる新たな公共交通が必要	**方向性②　町内公共交通の利用者需要に即した新しい交通（デマンド型交通等）の効率的な導入**
・自動車への依存度が高い ・バス交通への町負担額の増加 ・元気号を含む白老町公共交通の運行情報の分かりにくさ	課題④　元気号の積極的な利用を促す取り組みが必要	**方向性③　バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の実施**
・高齢化の急速な進行	課題⑤　後期高齢者など移動困難者に対する生活支援サービスの充実を継続的に検討していくことが必要	**方向性④　移動困難者における生活移動の支援策の検討**
・平成32年の国立アイヌ民族博物館開設に向けた観光交通の整備 ・白老町内観光施設をつなぐ周遊バスの利用ニーズがある	課題⑥　白老町における観光行動の活発化に資する町内観光交通の検討が必要	**方向性⑤　生活交通と連携した町内観光施設を周遊するバス路線の構築**
・公共交通を活用した近隣市への買い物や通院、その他私用などの生活移動のニーズがある	課題⑦　広域的な生活行動を支える広域公共交通の確保が必要	**方向性⑥　町民の広域的な生活行動を支援する苫小牧市及び登別市等近隣市への広域公共交通の維持**

地域と暮らしを支え、人とコミュニティをつなげる公共交通システムの構築

基本方針　白老町のめざす公共交通像

方向性①　暮らしの利便性と快適性を確保する元気号の運行内容の見直し
方向性②　町内公共交通の利用者需要即した新しい交通（デマンド型交通等）の効率的な導入
方向性③　バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の実施
方向性④　移動困難者における生活移動の支援策の検討
方向性⑤　生活交通と連携した町内観光施設を周遊するバス路線の構築
方向性⑥　町民の広域的な生活行動を支援する苫小牧市及び登別市等近隣市への広域公共交通の維持



方向性	①暮らしの利便性と快適性を確保する元気号の運行内容見直し
施　策	①地域循環バス「元気号」における路線及び時刻表の見直し 【実施主体：バス交通事業者、白老町】

町内を運行する地域循環バス「元気号」は、平成27年12月の大幅な運行内容の見直し以降、利用者数が4割減となっており、早急な見直しが必要となっています。

特に、萩野地区以西の虎杖浜地区においては、萩野公民館を乗換拠点として設定していることから、白老市街地まで移動する際、乗り継ぎを余儀なくされており、利便性が大幅に低下しています。

したがって、白老町各地区から白老市街地までの直通路線の運行や運行ルートの短絡化、生活移動に合わせた運行時刻の改正など、白老市街地までのアクセス性及び利便性の向上に資する、地域循環バス「元気号」における運行内容の見直しを行うこととします。

【施策①の事業イメージ】

路線種別	施策内容		
	直通路線の設定	路線の短絡化	時刻表の改正
←→	●	●	●
←→	●		●
←→			●

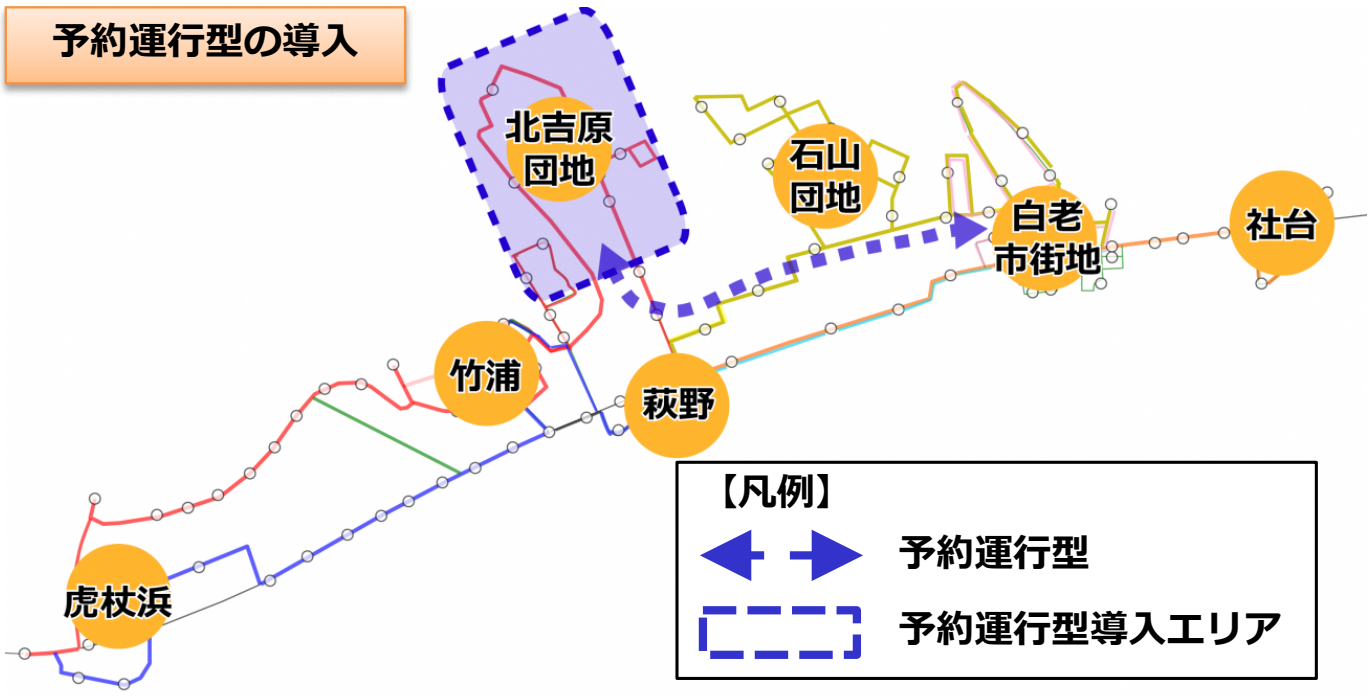
方向性	②町内公共交通の利用者需要に即した新しい交通（デマンド型交通等）の効率的な導入
施　策	②町内迂回区間における定時定路線と予約運行型を組み合わせた新たな公共交通形態の導入 【実施主体：バス交通事業者、白老町】

現行の地域循環バス「元気号」は、町内の団地などにおける迂回区間を多く運行しており、1便当たりの所要時間は長くなっています。

（保健福祉センター⇒萩野公民館：最長1時間8分）

そこで、地域循環バス「元気号」の効率的で効果的な見直しに向け、迂回区間における予約運行型の新たな公共交通形態の導入を行うこととします。

【施策②の事業イメージ】

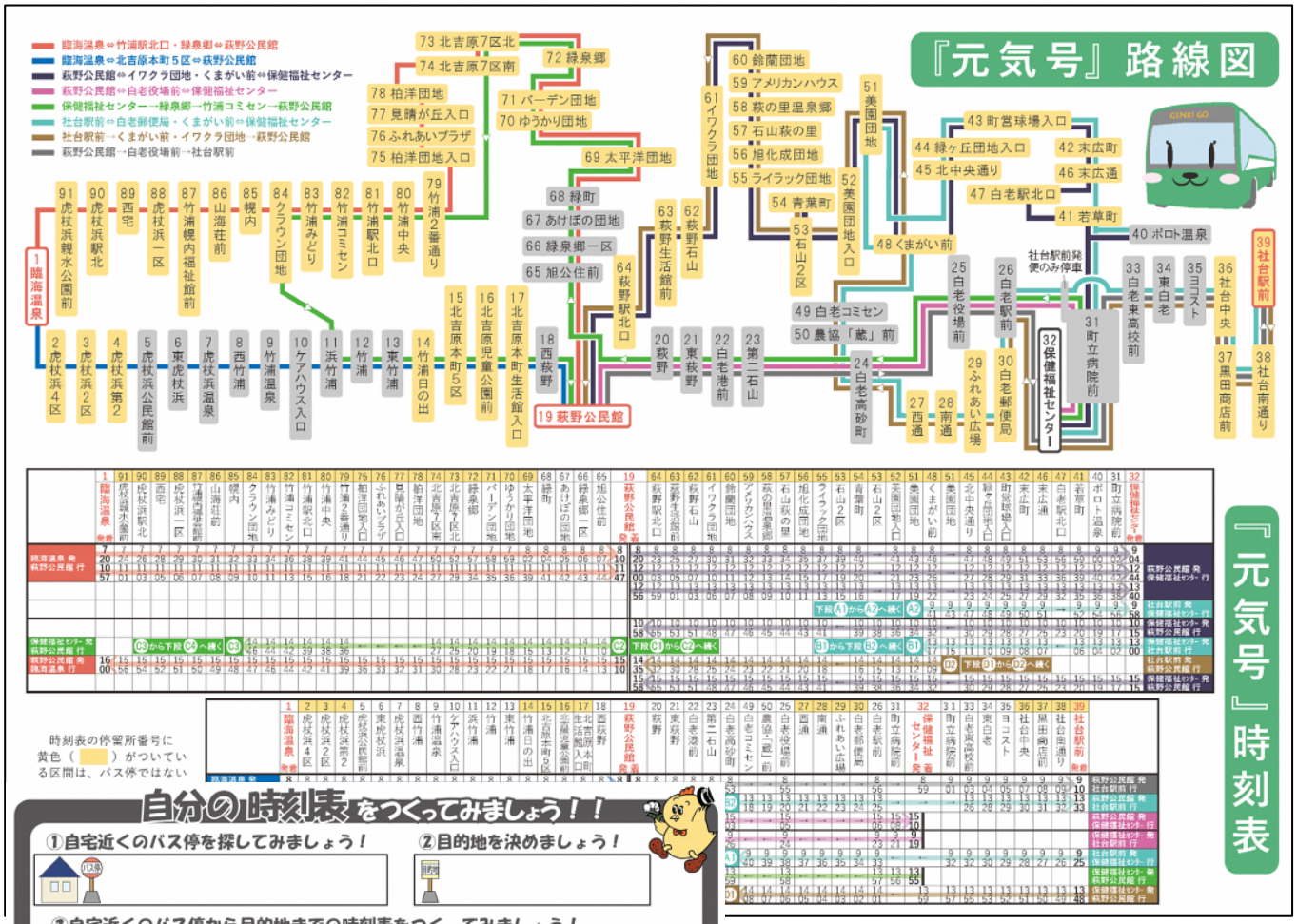


方向性	③バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の実施
施　策	③町内バス交通を網羅した利便性が高く使いやすいバスマップの作成・配布 【実施主体：バス交通事業者、地域住民、白老町】

町内を運行する地域循環バス「元気号」に関し、「運行路線や乗り継ぎなどの情報が分かりづらい」や「元気号の運行を知らない」などの意見が挙がっており、運行内容等の周知を徹底する必要があります。

そこで、町内を運行する全バス路線を網羅した、わかりやすいバスマップを作成し、全町民に配布することで、町民への周知徹底を図ることとします。また、バスマップに各個人の生活行動に合わせた時刻表が作成できる「自分の時刻表」を掲載することで、利便性が高く使いやすいバスマップを作成します。

【施策③の事業イメージ】



方向性	③バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の実施
施　策	④町内バス交通におけるわかりやすい運賃体系の構築 【実施主体：バス交通事業者、白老町】

現在の地域循環バス「元気号」は、定時定路線については1回あたり100円で利用することができますが、平成28年10月から運行している予約運行型については、1回あたり500円と運賃体系が異なっており、わかりやすい運賃体系の構築が必要となっています。

このことから、本年度実施したヒアリング調査では、定時定路線において「利便性が増すのであれば運賃の値上げをしても良い」や、「追加運行の予約運行型は運賃が高い」などの意見が挙がっており、町内バス交通におけるわかりやすい運賃体系の構築にあたっては、一律の運賃体系の構築を行うこととします。

方向性	④移動困難者における生活移動の支援策の検討
施　策	⑤後期高齢者等における移動困難者への生活支援サービスの継続検討 【実施主体：関係団体、白老町】

本町の高齢化率は急速に進行しており、平成27年で40.8%であった高齢化率は、平成32年で45.2%と町民の約2人に1人は高齢者となる見通しです。さらにこの傾向は継続することが予想されており、今後身体的事由により、外出することが困難な高齢者などの増加が考えられます。

そこで、これら移動困難者における日常的な生活行動を支援することが重要であり、生活支援に必要なサービス内容について、関係団体と連携し、継続的に検討していくこととします。

方向性	⑤生活交通と連携した町内観光施設を周遊するバス路線の構築
施　策	⑥本町への来訪者における移動を支援する観光周遊バスの導入 【実施主体：バス交通事業者、白老町】

本年度実施した町内観光施設等の来訪者に対するアンケート調査結果では、平成32年に開設予定の国立アイヌ民族博物館をはじめ、町内他観光施設への来訪意向が2割以上あり、本町における観光行動の活発化に向けては、町内観光資源のネットワーク化に資する取り組みの実施が求められています。

そこで、国立アイヌ民族博物館の開設を視野に入れ、町内観光施設を周遊するバス路線の導入可能性について模索するとともに、町内を網羅的に運行している地域循環バス「元気号」の活用方策についても検討することとします。

方向性	⑥町民の広域的な生活行動を支援する苫小牧市及び登別市等の近隣市町への広域公共交通の維持
施　策	⑦本町と周辺市町を結ぶ地域間幹線系統の維持 【実施主体：バス交通事業者、白老町】

平成22年度のバス交通に関するアンケート調査及び、本年度実施した地域循環バス「元気号」の運行体系見直しに関する地域住民ヒアリングでは、近隣市である苫小牧市や登別市への買い物や通院等の生活移動が見られ、町民における広域的な生活行動を支援することが重要でると考えます。

したがって、町民における近隣市である苫小牧市や登別市への生活移動を支援するため、町内を運行する鉄道及び地域間幹線系統バスの維持をはじめ、長期的な視点として地域循環バス「元気号」の乗り入れを検討します。

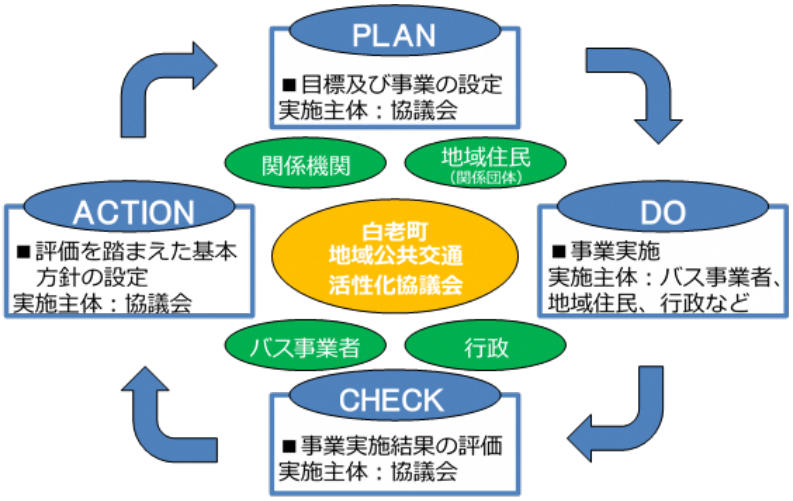
目　標　計画の進行管理に関する指標

指標	現況地（平成28年度）	目標値（令和６年度）
方向性①　暮らしの利便性と快適性を確保する元気号の運行内容の見直し		
元気号における1日当たりの利用者数	56.4人/日	70.0人/日
方向性②　町内迂回区間における定時定路線と予約運行柄を組み合わせた新たな公共交通形態の見直し		
予約運行型の新たな公共交通形態の1日当たり利用者数	-	20.0人/日
方向性③　バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の展開		
元気号の年間利用者数	20,579人(見込)	25,500人
方向性④　移動困難者における生活移動の支援策の検討		
福祉有償運送事業所数の維持	5事業所	5事業所
方向性⑤　生活交通と連携した町内観光施設を周遊するバス路線の構築		
町内バス路線利用者の観光目的割合	0.0%	20.0% ※目標値（令和2年度）
方向性⑥　町民の広域的な生活行動を支援する苫小牧市及び登別市などの近隣市町への広域公共交通の維持		
地域間幹線系統の維持	2路線	2路線

チェック体制　協議会におけるPDCAサイクル

本計画で掲げた基本方針や施策を進めていく上で、白老町地域公共交通活性化協議会において、「計画（PLAN）～実行（DO）～検証（CHECK）～改善（ACTION）」のPDCAサイクルを確実に実施し、施策に係る全ての関係者（バス事業者、地域住民、行政等）が施策効果の検証結果を共有することとします。

また、計画期間を通じた長期的なPDCA、計画期間の中間で評価・見直しを行う中期的なPDCA、実施施策毎の進捗管理等を行う短期的なPDCAを実施します。



スケジュール　施策実施に関する想定スケジュール

施策	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6
方向性①　暮らしの利便性と快適性を確保する元気号の運行内容の見直し								
地域循環バス「元気号」における路線及び時刻表の見直し	検討期間	本格運行						
方向性②　町内公共交通の利用者需要に即した新しい交通（デマンド型交通等）の効率的な導入								
町内迂回区間における予約運行型の新たな公共交通形態の導入	検討期間	本格運行						
方向性③　バスマップの作成・配布や運賃施策などの利用促進策の実施								
町内バス交通を網羅した利便性が高く使いやすいバスマップの作成・配布	検討期間	本格運行						
町内バス交通におけるわかりやすい運賃体系の構築	検討期間	本格運行						
方向性④　移動困難者における生活移動の支援策の検討								
後期高齢者等における移動困難者への生活支援サービスの継続検討	検討・適宜実施							
方向性⑤　生活と連携した町内観光施設を周遊するバス路線の構築								
本町への来訪者における移動を支援する観光周遊バス路線の導入	検討期間		運行準備・適宜運行					
方向性⑥　町民の広域的な生活行動を支援する苫小牧市及び登別市等の近隣市町への広域公共交通の維持								
本町と周辺市町を結ぶ地域間幹線系統の維持	適宜実施							